「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」基礎研究ステージ・シーズ創出タイプ

DNAの「目印」で気候変動に強いイチゴを早く！



カスタム型DNAマーカーパネルによる気候変動対応F1イチゴ育種システムの開発

実施期間：2025-2027年度

イチゴ生産の悩み



猛暑で花が遅れる



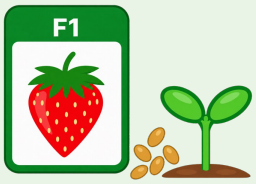
病気が増える



苗づくりが重労働

解決のカギ

種から育つ **F1品種**



苗づくりがラクに

3つの研究課題

DNAマーカー ＝ 性質を見分けるDNAの「目印」

1 ゲノムを安く丸ごと解析



- ゲノム全体を低コストで把握
- 最適な親の組合せを予測

東京大学

ゲノム全体のDNAマーカー

2 気候変動に強い形質を判別



- 暑くても花芽ができる
- 炭疽病・うどんこ病に強い

宇都宮大学・三重県・栃木県・千葉県

形質を選抜するためのDNAマーカー

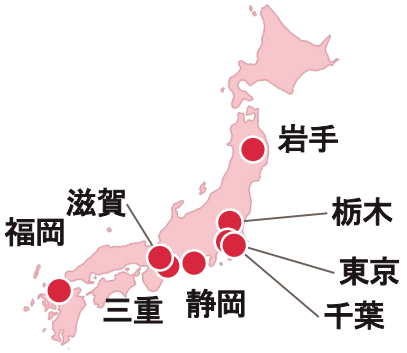
3 全国の育種現場で使える「カスタム型DNAマーカーパネル」



- 課題1・2のDNAマーカーを1つに
- 全国7か所の育種現場で実証

東京大学・栃木県・三重県・福岡県
農研機構・ミヨシ・タキイ種苗

産学官 All Japan 体制　全国9機関＋協力機関



大学	東京大学（研究代表）・宇都宮大学
県	栃木県農業総合研究センター・三重県農業研究所 福岡県農林業総合試験場・千葉県農林総合研究センター
国	農研機構（野菜花き研究部門・ 東北農業研究センター）
企業	株式会社ミヨシ・タキイ種苗株式会社
協力	合同会社みえの森苺園

目指す姿　全国の育種機関が使える技術で、気候変動に強いF1品種を生産者へ

F1イチゴ育種システム開発コンソーシアム